

龜井隱岐守家來

福原權左衛門

五月十八日

御附札

書面之通御心得不苦候事

一右御同人様御用人西金大夫方を以演説

攝家親王方之御同宿之儀、書面之通御心得不苦候得共、於彼方同驛止宿ハ殊之外六ヶ敷被申候由、美濃守及承候儀も有之候、心得之儀ハ、書面之通ニて宜候得共、右之義ハ御勘辨可有之義ト存候、此段御心得迄申候様被申聞候旨被申候、略

〔途中行逢會釋〕享和元酉年二月四日、遠藤但馬守様ハ高家戸田土佐守様江御問合

堂上之衆、於途中行逢候節會釋之儀、別に禮節も無之事に候間、旅中にて當地之通相心得、攝家親王門跡方は、乘輿之儘片寄扣居見計通行可致旨、伊豆守殿御書取を以被仰渡候、依之爲心得書付差出、同年二月十六日伊豆守殿江伺置候處、同廿八日御差圖、馬上勤之嫡子、途中にて堂上衆行逢候節之心得も御書取を以、左之通御差圖有之、

乘輿にて馬上也、同様之儀と差別無之事、略

〔五街道取締〕御朱印其外行逢候節之心得又は及不敬候もの之事

攝家親王門跡方行逢候節、乘輿之儘片寄罷在候は主人之義にて、陪臣之分は、乘輿御届相濟行列之内に候共、駕籠之儘罷在候儀には有之間敷、下乗いたし可申事に候、尤下に時宜いたし候分には無之候得共、立居候筋には有之間敷候、略

〔帝王編年記〕文武大寶元年、今年以皇子號親王、又被止親王乘馬出入宮門、

〔新儀式〕略時下親王公卿有別勅聽、乘輦車出入宮中并帶劔事